

温泉の成分、禁忌症、適応症

成分

- 1 源泉名  
神岡温泉2号
- 2 泉質  
ナトリウム-塩化物泉 (高張性 弱アルカリ性 高温泉)
- 3 泉温  
源泉 50.7℃  
使用位置 43℃

4 温泉の成分 (試料1kg中)

pH 7.80

(1) 陽イオン		(2) 陰イオン	
リチウムイオン	0.2 mg	フッ化物イオン	2.1 mg
ナトリウムイオン	3682 mg	塩化物イオン	5731 mg
カリウムイオン	17.5 mg	臭化物イオン	15.7 mg
アンモニウムイオン	1.3 mg	ヨウ化物イオン	1.1 mg
マグネシウムイオン	11.2 mg	硫化水素イオン	0.1 mg未満
カルシウムイオン	154.0 mg	硫酸イオン	0.1 mg未満
ストロンチウムイオン	7.1 mg	チオ硫酸イオン	0.3 mg
バリウムイオン	0.4 mg	硫酸イオン	328.1 mg
アルミニウムイオン	0.6 mg	炭酸水素イオン	197.2 mg
マンガンイオン	0.1 mg		
鉄(II)イオン	2.1 mg		
鉄(III)イオン	0.5 mg		
陽イオン 計	3877 mg	陰イオン 計	6276 mg
(3) 遊離成分		(4) その他微量成分	
①非解離成分		鉛イオン	0.01 mg未満
メタケイ酸	38.8 mg	カドミウムイオン	0.005 mg未満
メタホウ酸	16.9 mg	総水銀	0.0005 mg未満
メタ亜ヒ酸	0.1 mg未満	総ヒ素	0.007 mg
		銅イオン	0.01 mg未満
		亜鉛イオン	0.005 mg
非解離成分 計	55.7 mg		
②溶存ガス成分		溶存物質 (ガス性のものを除く)	10.21 g
遊離二酸化炭素	10.9 mg	溶存ガス成分	0.01 g
遊離硫化水素	0.1 mg未満	成分総計	10.22 g
溶存ガス成分 計	10.9 mg		

5 温泉の分析年月日

平成24年7月2日

6 分析機関の名称及び登録番号

財団法人秋田県総合保健事業団 秋田第3号

禁忌症、適応症

1 禁忌症 (浴用)

急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (とくに初期と末期)

2 適応症 (浴用)

きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進

3 入浴の方法及び注意

- 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。その後は1日当たり2~3回までとすること。
- 温泉療養のための必要期間は、おおむね2週間~3週間を適当とすること。
- 温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に湯あたり (湯さわり又は浴湯反応) が現われることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
  - 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3~10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
  - 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
  - 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない (湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)。
  - 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
  - 次の疾患については、原則として高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。
    - ア 高度の動脈硬化症
    - イ 高血圧症
    - ウ 心臓病
  - 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
  - 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
  - 飲酒しての入浴は特に注意する。

4 禁忌症・適応症決定年月日

平成24年9月11日

5 決定者

秋田県大仙保健所長 豊島優人

成分に影響を与える項目

●加水の有無 有 無

理由: 源泉の温度が高いため、加水していません。

●加温の有無 有 無

理由: 冬期は貯湯槽の温泉の温度が適温より下がるため、加温することがあります。

●循環利用の有無 有 無

理由: 温泉資源の保護と衛生管理のため、循環ろ過装置を使用しています。

●入浴剤等の添加の有無 有 無

●消毒処理の有無 有 無

理由: 衛生管理のため、塩素系薬剤を使用しています。